

『経営行動』の各版の比較【草稿】

2011.10.10

東京大学 高橋伸夫

サイモンは何を改訂していたのか？ 初版～第4版の関係

『経営行動』の著者サイモン(Herbert A. Simon)は1916年6月15日生まれで2001年2月9日没。1978年には「経済組織内部での意思決定プロセスにおける先駆的な研究を称えて」ノーベル経済学賞を授賞されており、『経営行動』(*Administrative Behavior*)はその主要業績の一つに挙げられる。

『経営行動』には、奥付によれば、1945年版、1947年版(初版)、1957年版(第2版)、1976年版(第3版)、1997年版(第4版)の五つのバージョンがある。1945年版はほぼ30歳のとき、第4版(1997)は84歳で亡くなる4年前に出版されていることになる。サイモンは、この第4版(1997)とほぼ同時期の1996年に、自伝『学者人生のモデル』(*Models of My Life*)も出版している。

『経営行動』の翻訳は、松田武彦(1921年～1999年: 1981年10月～1985年9月東京工業大学学長)・高柳暁(1931年5月9日～1998年4月11日)・二村敏子(1933年10月13日～)の3人による共訳で、第2版(1957)の翻訳が1965年8月に、第3版(1976)の翻訳が1989年2月に、ともにダイヤモンド社から出版されている。しかし、原著第4版(1997)の出版直後に3人の共訳者のうち2人が相次いで亡くなったこともあり、第4版(1997)の翻訳は2009年7月まで出版されなかった。

初版(1947)、第2版(1957)、第3版(1976)、第4版(1997)の間関係は、第4版(1997)で第3版(1976)を3部構成(tripartite organization)と呼んだ際のラベル(1997, p. viii 邦訳 p. xi)を使うと図表1のように簡単に整理できる。

図表1. 初版～第4版の構成の推移

	初版(1947)	第2版(1957)	第3版(1976)	第4版(1997)
長い序文 (lengthy introduction)	(序文なし)	第2版への序文【31pp.】	第3版への序文【34pp.】	(短い序文)【4pp.】
元の本文 (original text) 第1～11章	○	○	第1部	○+各章の「注釈」*
論文の転載 (reprints of articles) 第12～17章			第2部	

* 第4版(1997)は、元々の本文の第1～11章の各章の後に、「第n章の注釈」(Commentary on Chapter n)として、第3版(1976)の長い序文と第2部の内容を分解整理して割り付けた構成になっている。

このうち「元の本文」部分については、初版～第3版は、ごく一部を除いて、全く同じ内容で、同じページ数がふってある。いわゆる同じ紙型であるといってもいい(第4版はそもそも本がより大判になり、紙型が異なる)。初版から第2版、第3版と版を重ねるごとに、いわゆる紙型が磨り減った類の活字のつぶれや汚れが累積的に増えていくのが見事でもある¹。

特に第3版は第2版の印刷ムラまでそのまま再現されているので、第2版の写真製版だ

¹ 例外は p. 59 で、初版と第2版であった活字の乱れが、第3版では直されている

ったのではないかと推察される。実は第 2 版自体も初版の写真製版だった可能性がある。実際、第 2 版、第 3 版では、ページの右端のピリオドやハイフン（もちろん初版にはあった）が消えている箇所が何箇所かある。たとえば、

- ・ 第 2 版から【p. 253, 下から 8 行目と 9 行目】2 行の右端のハイフンとカマが消えている。
- ・ 下の写真のように、第 3 版から【p. 41, 9 行目】行の右端のピリオドが消えている。このピリオドは、版を組み直している第 4 版【p. 47, 2 行目】でも、行の後半 3 分の 4 のところにあるにもかかわらず、消えたままである。第 4 版は、第 3 版をスキャナで読んだものを元データにしているのかもしれない。

初版

PROBLEMS OF ADMINISTRATIVE THEORY 41
 edge and information to the appropriate decision-points; what types of knowledge can, and what types cannot, be easily transmitted; how the need for intercommunication of information is affected by the modes of specialization in the organization? This is perhaps the *terra incognita* of administrative theory, and undoubtedly its careful exploration will cast great light on the proper application of the proverbs of administration.
 Perhaps this triangle of limits does not completely bound the area of rationality, and other sides need to be added to the figure. In any case, the enumeration will serve to indicate the kinds of considerations that must go into the construction of valid and non-contradictory principles of administration.

第 2 版

PROBLEMS OF ADMINISTRATIVE THEORY 41
 edge and information to the appropriate decision-points; what types of knowledge can, and what types cannot, be easily transmitted; how the need for intercommunication of information is affected by the modes of specialization in the organization? This is perhaps the *terra incognita* of administrative theory, and undoubtedly its careful exploration will cast great light on the proper application of the proverbs of administration.
 Perhaps this triangle of limits does not completely bound the area of rationality, and other sides need to be added to the figure. In any case, the enumeration will serve to indicate the kinds of considerations that must go into the construction of valid and non-contradictory principles of administration.

第 3 版

PROBLEMS OF ADMINISTRATIVE THEORY 41
 edge and information to the appropriate decision-points; what types of knowledge can, and what types cannot, be easily transmitted; how the need for intercommunication of information is affected by the modes of specialization in the organization? This is perhaps the *terra incognita* of administrative theory, and undoubtedly its careful exploration will cast great light on the proper application of the proverbs of administration.
 Perhaps this triangle of limits does not completely bound the area of rationality, and other sides need to be added to the figure. In any case, the enumeration will serve to indicate the kinds of considerations that must go into the construction of valid and non-contradictory principles of administration.

第 4 版

Some Problems of Administrative Theory 47
 Perhaps this triangle of limits does not completely bound the area of rationality, and other sides need to be added to the figure. In any case, the enumeration will serve to indicate the kinds of considerations that must go into the construction of valid and noncontradictory principles of administration.

では、なぜ第 3 版は初版を元に写真製版せずに、第 2 版を元に写真製版をしたのだろうか。その理由は、初版と第 2 版では、ごく一部とはいえ修正が施されているからである。初版と第 2 版は索引まで全く同じであるが、例外は、私が発見できたものは 2 箇所である。

- ① 【p. 244, 7 行目】初版では“Since the administrative theory is . . .”だったものが、第 2 版では“the”をとって、“Since administrative theory is . . .”と修正されている。
- ② 【p. 250, 下から 10 行目】初版では“predicated on ought-sentences”だったが、“on”が”of”に代わって“predicated of ought-sentences”と修正されている。

これらの箇所は、段落全体を組み直しているので比較的発見しやすいが、その必要もないような修正箇所は見つけにくいので、まだ他にもあるのかもしれない。

1947年版が初版だとすると1945年版とは何だったのか？

ここで、問題になるのは1945年版の位置づけである。『経営行動』の初版(1947)のいわゆる奥付には、すでに“COPYRIGHT, 1945, 1947, BY HERBERT A. SIMON”と明記されていた。これとは別に、「準備版」(preliminary edition)という表現が、初版1947年版の「まえがき」(Preface)の第二段落の冒頭に登場している。しかし、準備版が1945年版を指すことは、本の中にはどこにも明示されていなかった。その答は、意外にも、図書館などでは所蔵の際に剥がされてしまうブックカバーにあったのである。私の手元にある初版1947年版の9刷(1955)のブックカバーのback flapの最後には下の写真のように“(NOTE: A preliminary edition of this book was issued in 1945 by the author for limited distribution.)”という記述があり、Simonが1945年版を「準備版」(preliminary edition)と呼んでいたことが分かる。

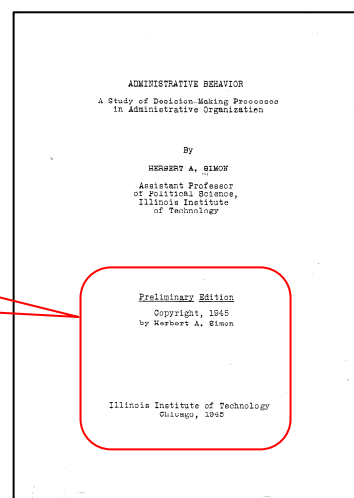
**(NOTE: A preliminary edition of this book
was issued in 1945 by the author for
limited distribution.)**

では、この準備版1945年版とは何だったのか？サイモンの自伝(ch.6)によれば、『経営行動』はシカゴ大学に提出した政治学の博士論文が元になっており、1942年5月に口頭試問が行われた。当時(1939年夏から)、サイモンはバークレーに滞在しており、郵送で博士予備試験に合格し、バークレーの政治学科の指導のもとにバークレーで博士論文を書いてよいことになっていた。そして「1945年のあたり、イリノイ工科大学で教えていた頃であるが、私は学位論文を改訂し、コメントをもらうためにあちこちに配り、さらに改訂し、面倒を見てもいいという編集者(マクミラン社のDonald Porter Geddes)を見つけ、本として出版した。1947年のことである。」(p.88 邦訳 p.136)ということになる。

実は、1945年版は、米国国会図書館で紛失扱いになっているのであるが、この幻の1945年版が、エール大学の図書館で、2006年2月に同大学に留学中の清水剛氏によって発見された。見つかった1945年版はタイプされた草稿をそのままレター・サイズの用紙に片面印刷し、黒いボール紙のような表紙の2穴式のバインダーで綴じて仮製本をしたもので、中表紙には、

Preliminary Edition
Copyright, 1945
by Herbert A. Simon

Illinois Institute of Technology
Chicago, 1945



となっていた。すなわち、1945年版はマクミラン社から出版されたものではなく、1945年にサイモンが、Assistant Professor をしていたイリノイ工科大学から、“Preliminary Edition” (準備版)として配布していたものだったのである。

1947年の初版は1945年の準備版を大幅に書き直したものであり、対応関係を詳細に特定することは難しいが、章の間の大雑把な対応関係は図表2のように整理できる。

図表 2. 準備版(1945)と初版(1947)の対応関係

準備版(1945)		初版(1947)		
1	Introduction—The administrative process	19	1 意思決定と管理組織 Decision-making and administrative organization	19
			2 管理理論の若干の問題点 Some problems of administrative theory	25
2	The correctness of decisions	5	3 意思決定における事実と価値 Fact and value in decision-making	16
3	The logic of administrative decisions	29	4 管理行動における合理性 Rationality in administrative behavior	18
4	The psychology of administrative decisions	31	5 管理上の決定の心理 The psychology of administrative decisions	31
			6 組織の均衡 The equilibrium of the organization	13
5	The concept of authority ²	30	7 オーソリティーの役割 The role of authority	31
			8 コミュニケーション Communication	18
6	The criterion of efficiency	39	9 能率の基準 The criterion of efficiency	26
7	Institutional identifications and decision-making	21	10 忠誠心と組織への一体化 Loyalties and organizational identification	22
8	Influencing decisions	24	11 組織の解剖 The anatomy of organization	28
9	Organizing the skills of decision ³	36		
A	What is an administrative science?	7	A 管理科学とはなにか What is an administrative science?	6
B	Mathematical formulation of the theory of efficiency	4		
245				253

ここで眼を引くのは、初版(1947)の第6章「組織の均衡」が準備版(1945)には存在しなかったこと(このことについては後で詳述する)。そして、初版(1947)の第2章「管理理論の若干の問題点」が、実は準備版(1945)では最後の章で、初版(1947)第11章「組織の解剖」と並んで、本来は『経営行動』の理論の応用として位置づけられていたことであろう。

すなわち、1945年版は、完成度という点では準備版の域を出ないのだが、自らのオリジナリティーを示すための証拠としては、「1945年」の日付だけは必要だったのだ。逆に言えば、それほどまでに、『経営行動』の核心部分に対するゲーム理論の影響は絶大だったの

² 1945年版のch.5の一部は若干修正されて1947年版のch.5に入っているが(1947年版のch.5, p.102, Mechanisms of Organizational Influenceのあたり以降)、1945年版のch.5の残りは1947年版のch.7になる(清水剛, 私信, 2006年2月4日)。

³ ch.9はナンバリングのミスでp.203がない。

である。実際、初版(1947)の第4章・第5章は準備版(1945)の第3章・第4章に書き足されたものではない。図表2からもわかるように、特に初版(1947)の第4章は準備版(1945)の第3章から大幅に短くなっている。つまりゲーム理論のアイデアを使うことで、理論的にすっきりと整理されたのである。詳細については次の論文を参照のこと。

高橋伸夫(2008)『『限定された合理性』はどこに—経営学輪講 Simon (1947, 1957, 1976, 1997)』『赤門マネジメント・レビュー』Vol.7, No.9, 2008年9月 pp.687-706.

<http://www.gbrc.jp/journal/amr/AMR7-9.html>

第6章「組織の均衡」は『経営行動』の主題から外れていた

第2版(1957)・第3版(1976)・第4版(1997)の序文で解説される「本書の構成」(structure of the book)での整理によると、『経営行動』は図表3のような四つまたは五つの層の問題から構成されている。

図表3. 『経営行動』の階層構造

	(初版(1947)*) 第2版(1957)	第3版 (1976)	第4版 (1997)	第2版(1957)・第3版(1976)での解説**
第5層		第12～17章 (第2部)	第11章	組織構造の問題を扱うのにこの分析をどのように用いることができるかを例証する。
第4層	第11章	第11章	第7～10章	組織自身が意思決定過程にどのような影響を及ぼすかについて討議する基礎を得るために、これらの影響過程を詳しく調べる。
第3層	第7～10章	第7～10章	第6章	組織と個人の間、動機的なつながりを示す—すなわち、なぜ組織の影響、特にオーソリティーの影響が、人間の行動を形づくるのにこのような効果的力となるのかを説明する。(第4版も同じ)
第2層	第4～5章	第4～5章	第4～5章	組織的環境のなかで意思決定と関連をもつようになる諸影響を理解することができるように、合理的選択の理論を組み立てる。
第1層	第2～3章	第2～3章	第2～3章	人間の合理的な選択の構造を分析できるように方法論上の問題を若干扱う。

* 初版(1947)にはそもそも序文が存在しないので、このような整理は行っていない。

** 1957, p.xiii 邦訳序文 p.8; 1976, p.xiv 邦訳序文 pp.11-12; 1997, p.ix.

ここで、第1層を下にして積み上げているのは、第3版(1976)序文で「より上の諸層(すなわち3と4)から下へと」(from the higher strata (i.e., strata 3 and 4) down)(1976, p.xv 邦訳序文 p.12)という表現が使われているからである⁴。同様に、「これまで、われわれは主として、第7章から第17章⁵までに関する事柄について述べてきた⁶。これらの章は、前に述べたよ

⁴ 第2版(1957)序文では「最上層から下へ」(from the top stratum down)となっていた(1957, p.xiii 邦訳序文 p.8)。

⁵ 「第17章」は第2版(1957)では「第11章」だった(1957, p.xxii 邦訳序文 p.19)。

⁶ 邦訳では変わっていない「述べてきた」は、原典では変わっており、第2版(1957)では“we have been concerned”だったが(1957, p.xxii 邦訳序文 p.19)、第3版(1976)では“we have been

うに、本書の構成の最上の諸層⁷に相当する。」(1976, p.xxvi 邦訳 序文 p.26)とあり、第 7 章から第 17 章が上の階層(複数)であることが明記されている⁸。

実は第 4 版(1997)の序文は、第 3 版(1976)までの序文のうち、この「本書の構成」のあたりだけを残して、他は削除されている(各章の注釈へ移動しているものもある)。ここで注目されるのが第 6 章「組織の均衡」の扱いである。第 2 版(1957)・第 3 版(1976)では層の中にはそもそも入っていなかった。そして、「第 6 章は、組織と個人の間の、動機的なつながりを示すために挿入される。」(1957, p.xiii 邦訳序文 p.8; 1976, p.xv 邦訳序文 p.12)と「挿入」という言葉が用いられている。実は、この第 6 章は元々、準備版(1945)にはなかった部分であり、初版(1947)でまさに新たに挿入された章なのである。

実際、ストーリー展開的にも第 4 版(1997)の序文のように第 3 層には入れるべきではなかったと思われる。第 4 版(1997)では削除されてしまった第 3 版(1976)の序文部分には「第 6 章は転換の性質を帯びている(Chapter VI is in the nature of a diversion)。(中略) 第 7 章から第 10 章までは、再び主題(main theme)に戻る。」(1976, p.xi 邦訳序文 p.8)と明記されている。確かに、『経営行動』の主題を追いかけるという意味では、第 6 章はもともとの階層構造には入らない。第 6 章を除いた章は、組織の内部での意思決定過程を扱っていて一貫性があるが、この第 6 章だけが、組織の境界で人が組織に参加するか去るかの意思決定を扱っていて、しかも「この章の大部分はバーナードの考えを言い替えたもの(restatement)」なのである(1976, p.xi 邦訳序文 p.8)。

第 3 版(1976) 第 2 部の位置づけ

ところで、第 3 版(1976)の第 2 部は、第 4 版(1997)ではどこに行ってしまったのだろうか。実は、解体されて第 4 版(1997)の各章の注釈(Commentary)に割り振られてしまったらしい。そして、その行き先については、既に第 3 版(1976)の序文で、第 2 版(1957)の序文への追加部分である「第 2 部の計画」(Plan of Part II; 1976, pp.xiii-xiv 邦訳序文 pp.10-11)として、元の本文、第 1 章～第 11 章(実際には第 6 章～第 11 章)との関連性として示唆されていた。それが図表 4 の矢印である。

discussing” になっている(1976, p.xxvi 邦訳 序文 p.26)。

⁷ 「最上の諸層」(the topmost strata)が正しいが、第 3 版(1976)の邦訳では「第一と第二の層」となっていた。これは第 2 版の“the first and second strata”の訳(1957, p.xxii 邦訳序文 p.19)が改訂されずにそのまま残ったもので誤訳。

⁸ ただし、この直後に「いまや、もう少し深く第 4 章と第 5 章よりなる第三の層(the third stratum)まで掘り下げたいと思う。」(1976, p.xxvi 邦訳 序文 p.26)とあるが、第 3 版(1976)では第 4 章と第 5 章は上から数えても下から数えても第三の層にはならない。しかし、第 2 版(1957)では確かに上から数えて第三の層になるので、これは第 3 版の序文に改訂する際のサイモンの改訂ミスだと考えられる。実はこの引用部分の表現は、前の三つの脚注で指摘した部分以外は第 2 版(1957)の序文から変わっていない(1957, p.xxii 邦訳序文 p.19)。

図表 4. 第3版(1976) 第2部の位置づけ

初版(1947)・第2版(1957)・ 第3版(1976) 第1部		第4版*			第3版(1976) 第2部	
		本	C			
序文**	42	4				
Introduction						
1 意思決定と管理組織	19	16	12			
Decision-making and administrative organization						
2 管理理論の若干の問題点	25	21	5			
Some problems of administrative theory						
3 意思決定における事実と価値	16	13	4			
Fact and value in decision-making						
4 管理行動における合理性	18	16	5			
Rationality in administrative behavior						
5 管理上の決定の心理	31	26	22			
The psychology of administrative decisions						
6 組織の均衡	13	11	26			
The equilibrium of the organization						
7 オーソリティーの役割	31	25	6		12	22
The role of authority					On the concept of organizational goal	
8 コミュニケーション	18	15	27		13	9
Communication					The future of information-processing technology	
9 能率の基準	26	22	6		14	21
The criterion of efficiency					Applying information technology to organization design	
10 忠誠心と組織への一体化	22	18	9		15	6
Loyalties and organizational identification					Selective perception: The identifications of executives	
11 組織の解剖	28	24	27		16	20
The anatomy of organization					The birth of an organization	
A 管理科学とはなにか	6	5	0		17	22
What is an administrative science?					The business school: A problem in organization design	
	253	360				100

* 第4版(1997)の「本」は各章の本体部分、「C」は注釈(Commentary)部分のページ数。第4版(1997)は第3版(1976)より大判の装丁になったために、各章のページ数は減少する。

** ページ数42は第3版(1976)の序文のページ数。第2版(1957)の序文は31ページだった。